

## 巻頭言

副会長 佐々木 哲

“あつい “ お話を3つ。

まずは「暑い」から。今年の夏はうだる様な暑さが続きました。福岡市の7月平均気温（ちなみに30.0度）が全国一になったり、観測開始以来、最も暑い最低気温（こちらは29.8度）を記録したり…。しかし、職場は冷房が効いていて、ちょっと肌寒く感じたり…。もっぱら、体調管理に気を遣っています。

次は「熱い」。参議院選挙では日本言語聴覚士会も応援していました、山口かずゆき氏が見事当選しました。これにより政策議論の中でリハビリテーションが取り上げられやすくなり、訪問リハビリテーションの実現などの政策が進むことが期待されます。また、当会も4月より一般社団法人として新たなる一歩を踏み出しました。一般社団法人は、その定款を公証役場で認証を受け、法務局に登録しますので、その存在が担保されています。よって、個人で事業を営むよりも圧倒的に信用力が増します。また、自治体や行政機関は、仕事を個人に依頼することは少ないのが現状です。補助金や助成金なども法人の方が有利に働きます。つまり、私たちSTが専門職として医療や介護、教育の各分野でより役割を担う機会が増えることが期待されます。私は時々、ニーチェの語録集を読む（読まされる）機会があります。語録集には文字通り数多くの名言が載っており、その時々で感じ方が変わってくるのですが、今回は「すべて、初めが危険だ。しかし、とにかく始めなければ始まらない」という言葉が目にとまりました。初めてのことは、色んなリスクを伴いますが、ニーチェの言うように、とにかく始めなければ始まりません。赤ちゃんが立ち上がって歩く時、色んな危険がありますが危険を恐れて、立ち上がらない赤ちゃんはいません。もちろん、危険を予知して、色んな策を講じることも必要ですが、それも「始める」ことが前提です。この先、どんなことが待ち受けているかわかりませんが、先駆けて、自分から切り拓きたいと思っています。

最後は「篤い」。8月3日、4日に「九州地区学術集会 福岡大会」が開催されました。予想を上回る450名もの参加者があり、たいへん盛況な大会となりました。これもひとえに会員の皆様のご協力、ご尽力があったからこそと強く感じ、感謝いたしております。目標に向かって、皆が集い、知恵を出し合い、推し進めていくことはとても力強い。また、その為に費やされた努力は必ず報われるということを改めて思いました。

これからも新たなるステージに向けて、ともに歩んで参りましょう。